

# SCHEDULE

東京都写真美術館展覧会スケジュール

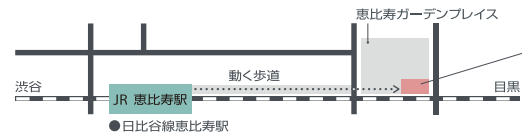
2010	3階展示室	2階展示室	地下1階展示室	1階ホール
3	 《海の幸・戦場の頂上の旗》 2010より		APAアワード2010 3月6日(土)~3月21日(日)	 Photo 女子バウロ会 生涯100年記念 マザー・テレサ映画祭 アンコール開催 3月20日(土)~4月11日(日)
4	森村泰昌・なにものかへのレクイエム -戦場の頂上の芸術- 3月11日(木)~5月9日(日)		 ジャンル〜シーフ写真展 UNSEEN & Best works 3月27日(土)~5月16日(日)	 写真提供: T&Kテレフィルム ショパン生誕200年記念上映 「別れの曲」 4月29日(木・祝)~5月16日(日)
5			第35回JPS展 日本写真家協会展 5月22日(土)~6月6日(日)	
6	ナダール(題不詳(甲冑姿の河津伊豆守))1864年 侍と私 -ポートレイトが語る初期写真- 5月15日(土)~7月25日(日)	東ベルリン、1986 古屋誠一 メモワール、 5月15日(土)~7月19日(月・祝)	 ピエトロ・マストゥルツォ/イタリア 世界報道写真展2010 6月12日(土)~8月8日(日)	 「ハーツ・アンド・マインズ」/ ベトナム戦争の真実 「ウインター・ソルジャー」/ ベトナム帰還兵の告白 6月19日(土)~
7			JPS周年展 8月14日(土)~8月29日(日)	
8	私とヌード -ポートレイトは裸である-(仮称) 7月31日(土)~10月3日(日)	オノデラユキ展 7月27日(火)~9月26日(日)	黒澤明絵コンテ展(仮称) 9月4日(土)~10月11日(月・祝)	
9			JPA展 10月16日(土)~10月31日(日)	
10	20世紀の人間像 -写真はポートレイトである-(仮称) 10月9日(土)~12月5日(日)	ラヴズ・ボディ展 10月2日(土)~12月5日(日)		※スケジュール・展覧会タイトル等は予告なく変更される場合があります。最新の情報はホームページをご覧ください。

## ご利用案内

- 休館日：毎週月曜日 ※月曜日が祝日または振替休日の場合、その翌日。年末年始 ※ただし4/29~5/9は無休
- 開館時間：10:00~18:00(木・金は20:00まで) 入館は閉館の30分前まで

## 割引チケットの販売

お得な割引料金で2会場以上を自由に組み合わせてご覧いただける割引チケットを販売しております。詳しくはチケット売り場でおたずねください。



## 東京都写真美術館

〒153-0062 東京都目黒区三田1-13-3 恵比寿ガーデンプレイス内  
Tel.03-3280-0099

<http://www.syabi.com>

JR恵比寿駅東口より徒歩約7分※当館には専用駐車場はありません。恵比寿ガーデンプレイスの駐車場を御利用ください。

※本誌編集ページに掲載されている観覧料および商品の価格は、原則として消費税込みの価格です。

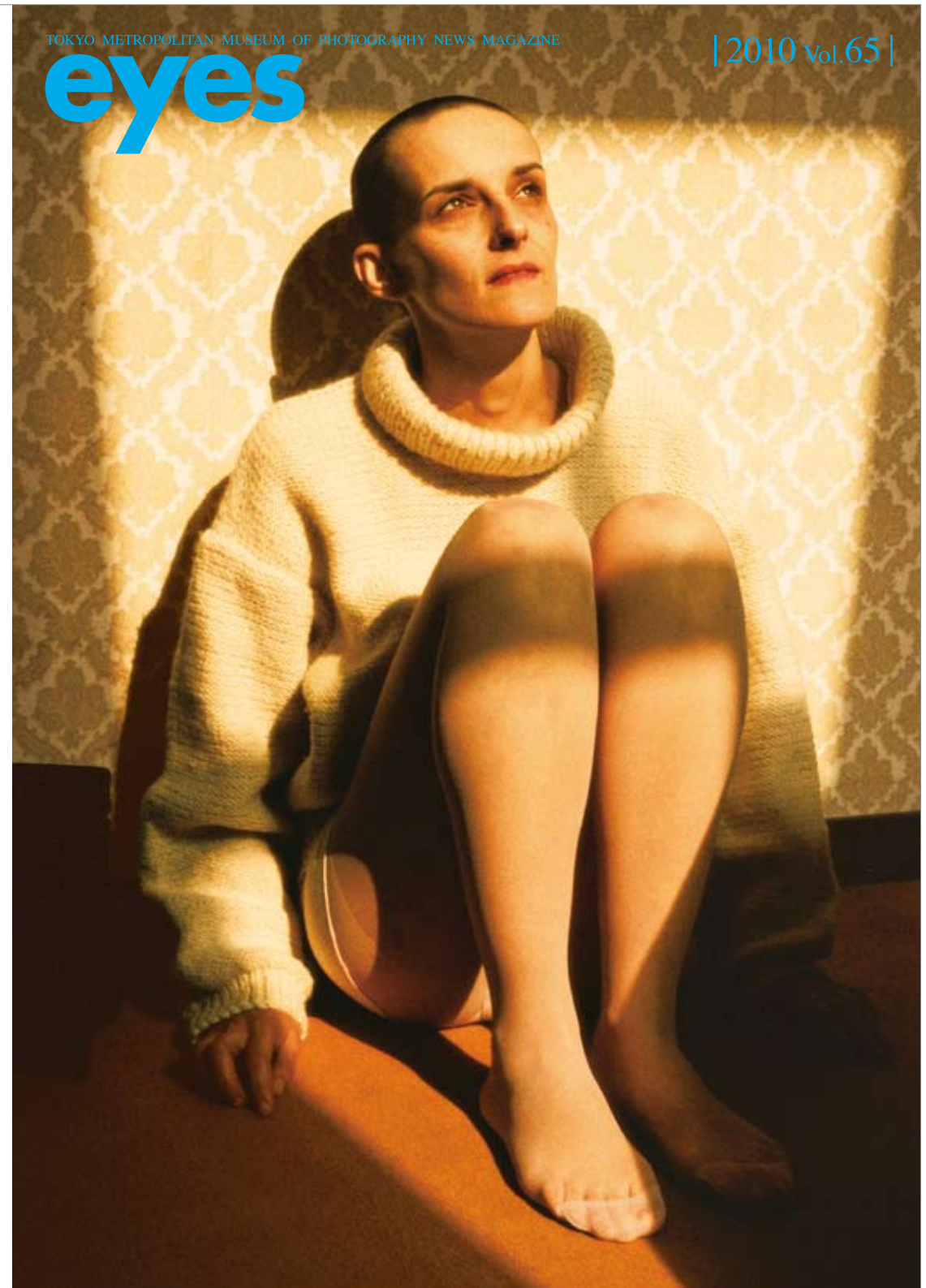
東京都写真美術館ニュース「アイズ10」65号 ●発行日：2010年3月10日 / 企画・編集：東京都写真美術館事業企画課 普及係

●印刷・製本：光写真印刷株式会社 ●発行：財団法人東京都歴史文化財団 東京都写真美術館 ©2010 ●本誌掲載の記事、写真の無断複写、複製を禁じます。

TOKYO METROPOLITAN MUSEUM OF PHOTOGRAPHY NEWS MAGAZINE

# eyes

| 2010 Vol.65 |





ウーデン、1983

Topics

# 古屋誠一 メモワール。

## 「愛の復讐、共に離れて……」

1989年の「メモワール」以来、家族が抱える闇や悲しみ、生死をテーマにした作品を発表し続ける古屋誠一。ヨーロッパを拠点に活動する古屋氏に、15年ぶりとなる日本での大規模展についてお話をうかがいました。

→メモワールのシリーズを撮り始めたきっかけを教えてください。多くの写真家や写真を使って表現を志す人たちは、まず何を撮りたいのか、表現したいのかなどとテーマを決めてから撮影



ウーデン、1983

を始めますが、僕の場合は少し違っていると思います。1989年以来「メモワール」というタイトルの個展や作品集を発表し続けてきて、この春、多分その最後となる5冊目の写真集を出版します。つまりメモワールという言葉が内にもつ世界が僕のこれまでの写真表現の原点にあったのは確かですが、このタイトルが先にあったのではないということです。1985年に妻の自死という「事件」を体験してから4年後、初めて個展という形で写真を発表する機会を得たときに色々と思案したあげく最終的に「メモワール」という言葉に辿りつきました。

今振り返ってみると、時の経過とともにその「事実」と正面から向き合わなければならない状況に追いこまれたのだと思います。僕がもう一人の僕、自己を相手に

【表紙：ベニス、1985】

問答を始めるために手元に残った写真やその他の記録をまず見ることから始めました。それから25年、時間と空間を超えて生きのびつづける記憶を、その度ごとに「現在」へと呼び戻しては蘇生させ編み直してきたわけですが、回を重ねていくうちにいつしかシリーズという言葉が使われるようになりました。まず写真や経験などが先に在ったということで、シリーズやタイトルのために写真が撮られたということではありません。

→今回の「メモワール」展は、これまでの「メモワール」の中でどのような位置づけとなるのでしょうか。

今回の展覧会は東京都写真美術館が内容的にも時間的にも僕の制作活動のほぼ全域から選択、収集した作品から構成されています。これまで20年間余り多かれ少なかれ「メモワール」という主題をとりまく形で作品発表をしてきましたが、こうしてほぼ全域に渡った作品をもとに大きな個展を開催するのは95年以降初めてのことです。自分以外の人にその展示構成を任せたいという意味でも、僕にとって全く新しい試みとなりました。それと同時に、この展覧会が最後のメモワール展になる、ピリオドが打たれたということです。彼女の死後、無秩序な記憶と記録が交錯するさまざまな時間と空間を行きつ戻りつしながら探し求めていたはずの何かが、今見つかったからというのではなく、おぼろげながらも所詮何も見つかりはしないのだという答えが見つかったのではないかと。しかしピリオドには終止符という意味とともに期間や時限の一区切りという意味もありますので、この先どのような展開をしていくのか本人にも不確かなことです。

→展示は7つのゾーン（「光明」「円環」「境界」「グラビテーション」「クリスティアーネ」「エピファニー」「記憶の復讐」）で構成されています。

基本的に写真展の展示、空間構成などはグループ展、個展にかかわらず可能な限り僕自身が決めるのですが、今回の展覧会では展示コンセプト全てを東京都写真美術館の学芸員である石田留美子氏と巡回先の熊本市現代美術館の雷澤治子氏に託しました。この7つのゾーンもお二人の考えのもとに生まれたもので、カタログに掲載されるそれぞれの論文で何らかの言及がなされるものと想像しています。

あえて言えることは、もし僕が一人でコンセプトを考えることになっていたのなら、決してこのようなゾーンによる仕分けにはならなかった、なり得なかったということです。つまり、僕には思いもよらなかった展示構成であり、それゆえに僕が長い時間をかけて模索しつづけてきたらしい何かがあぶり絵のごとく浮かびあがってくるのではないかという期待感を抱いています。数珠の珠（たま）をつなぎとめている糸、外からは見えないゾーンの芯を流れているようなものが見えてくるのではという予感と言えるかもしれません。



グラーツ、1992



シャッテンドルフ、1981

一長くヨーロッパで生活されていることは、写真に対する考え方に影響を与えているのでしょうか。

23歳で横浜港を渡ってから37年間ほぼオーストリアに住んでいますが、その事実が「写真に対する考え方」にどのような影響を与えたのか、答えに困ってしまいます。その間日本に住んでいないわけですから比較のしようがないという。ただ、外国に住むということは言葉の壁や生活環境の違いなどに始終さらされながら生きることで、ある種の緊張感や孤独感から免れない環境にいるということです。20歳過ぎまでに日本で会得したものや性格などはいかに長く外国に住んでも消え去るものではないし、二つの世界を行ったり来たりしているような不安定な不確かな感覚から逃れられない。絶えずアンテナを張っているような感じとも言えるかと思います。この感覚がきっと僕の写真に何らかの影響を与えているかもしれませんが、その判断は他者に委ねるしかありません。

いつか何処かで発表するとか、人に見せるといった目的で写真を撮っているのではなく、日常生活の中で一瞬ひらめきを感じるような場面に会った時に「ただ」撮ると言うのが僕の基本的な写真との関わり方です。いわゆる劇的



東ベルリン、1986



グラーツ、1997

な場面とか、美的構図を追い求めるようなものではなく、カメラをもって誰かがきつとるように日常の出会いを記録しているようなものですから、これからどのような写真を撮っていきたいかと考えたことがありません。ただ、時代や俗界の風潮に迎合しそうなコンセプトをまずつくって、それに合った図柄の採集に出かけてみようかと時々考えたりしますが、いざとなったらその行為のばかばかしさをもう一人の僕から笑い飛ばされるに違いありません。受動性が支配する世界、ただただ待つしかないというのが僕の写真かも知れません。

一どのように展覧会を見てもらいたいですか。

どのように見るかは、その人の資質と感性が決めることですからこちらからそれを要求するものではありません。写真そのものは僕が撮ったものですが、一旦僕から離れた時点でそれは何処にでもあるような一枚の写真となり、ただ、今日の前には在るというだけでそれ自体何も主張しません。そこに何らかの意味を読み取り、新しい言葉を発見することは鑑賞者に委ねられます。写真は一つの言葉に触発されてさらなる言葉を発見する過程において、丁度その中間辺りに不安定な状態でぶら下がっているようなもの、新たな世界の認識への橋渡しをするメディアでもあると思います。

人は必ず負の世界を自己の内に抱えています、それを外に出さずに生きています。でも、哀しみや苦しみといった負の感情も人が生きていくうえで欠かすことのできない豊かさをもたらすものであるということ、この展覧会を通して感じてもらえたらと思います。写真とは心の奥深く籠る「どうしようもない何か」と向き合い、さらにそれを表現の場へと引き上げることを可能にしてくれる素晴らしいメディアであるということも。

[2010年1月 インタビュー]



東ベルリン、1986



東ベルリン、1985

2F

2階展示室 Exhibition Gallery

友の会割引 三越カード割引 アトレカード割引

5月15日(土) → 7月19日(月祝)

## 古屋誠一 メモワール。 「愛の復讐、共に離れて……」

□ 一般 800(640)円 □ 学生 700(560)円 □ 中高生・65歳以上 600(480)円

( )は20名以上の団体および東京都写真美術館友の会会員、上記カード会員割引料金  
※小学生以下および障害者手帳をお持ちの方とその介護者は無料 ※第3水曜日は65歳以上無料

□主催：財団法人東京都歴史文化財団 東京都写真美術館／産経新聞社  
□後援：オーストリア大使館／サンケイスポーツ／タ刊フジ／フジサンケイビジネスアイ/iza!／SANKEI EXPRESS  
□協力：IZU PHOTO MUSEUM／株式会社アイワード／フォト・ギャラリー・インターナショナル

古屋誠一は、1972年に東京写真短期大学(現東京工芸大学)を卒業し、翌年オーストリアに渡航、その後欧州を中心に制作活動。1985年に東ベルリンで自死した妻クリスティーネを追悼する写真集「Mémoires(メモワール)」(1989年)を発表して以来、彼女との「沈黙の会話」を綴る写真集を制作し続けてきました。「Aus den Fugen」(ヴァンジ彫刻庭園美術館、2007年)や、「Trace Elements」(Nederlands Uitvaart Museum、2010年)など、人生の幾つもの現実を意識化するような独自の表現は国内外で高い評価を得ています。5月には、その最後の一冊となる写真集「Mémoires.1984-1987」

(NOHARA社)を出版します。本展では、「メモワール」シリーズを中心に、未公開作品や新作もふくめ約130点を展示。生と死と向き合いながら、真摯に写真を撮り続ける古屋の全貌を展覧できる絶好の機会です。

※担当学芸員によるフロアレクチャー

第1・3金曜日 14:00～  
※本展覧会の半券(当日有効)をお持ちの上、会場入り口にお集まりください。

※対談

○古屋誠一×小林紀晴 6月4日(金)18時30分～20時  
○古屋誠一×荒木経惟 6月5日(土)18時30分～20時  
※詳細はホームページをご確認ください。

# 2・3F

2・3階展示室 Exhibition Gallery

友の会割引 三越カード割引 アトレカード割引

3月11日(困)→5月9日(回)

## 森村泰昌・なにものかへのレクイエム

—戦場の頂上の芸術—

□ 一般 1,000(800)円 □ 学生 800(640)円 □ 中高生・65歳以上 600(480)円

( )は20名以上の団体および東京都写真美術館友の会会員、上記カード会員割引料金  
※小学生以下および障害者手帳をお持ちの方とその介護者は無料 ※第3水曜日は65歳以上無料

□主催：財団法人東京都歴史文化財団 東京都写真美術館／東京新聞  
□協賛：株式会社資生堂／富士フイルム株式会社／株式会社ニコン／株式会社ニコンイメージングジャパン／凸版印刷株式会社  
□協力：NECディスプレイソリューションズ株式会社／写真弘社／ShugoArts／財団法人草月会／株式会社キクチ科学研究所



《海の幸・戦場の頂上の旗》 2010より

80年代から一貫して、名画の登場人物や映画女優などに自らが「なる」変身型セルフポートレイトの写真作品を手がけてきた美術家・森村泰昌。その森村が、「男性的なるもの」の輝きを求め、政治や戦争、革命という「現実」の世界、20世紀を記録したシリアスな報道写真の世界に取り組んだくなにものかへのレクイエムを完全版でご紹介します。<美術史の娘>や<女優>シリーズなど、これまでに発表した作品のなかでは女性に「変身」するイメージが強かった森村。彼にとって、「男たち」になることは、自らの身体を

媒介して性を自由に超越し、「私」の可能性を追求するセルフポートレイトの新たな挑戦でもあります。森村泰昌の新たな表現の集大成をお楽しみください。

❖ 担当学芸員によるフロアレクチャー 第2・4全曜日 14:00～  
※本展覧会の半券(当日有効)をお持ちの上、会場入り口にお集まりください。

❖ 対談 平野啓一郎(小説家)×森村泰昌  
日時：2010年3月28日(日) 18:00～20:00  
場所：1階ホール ※定員200名  
※当日朝10時より1階受付にて本展チケット半券をお持ちの方に整理券を配布します。  
(番号順入場、自由席)

# B1F

地下1階展示室 Exhibition Gallery

友の会割引 三越カード割引 アトレカード割引

3月27日(土)→5月16日(回)

## ジャンルー・シーフ写真展 UNSEEN & Best works

□ 一般 800(640)円 □ 学生 700(560)円 □ 中高生・65歳以上 600(480)円

( )は20名以上の団体および東京都写真美術館友の会会員、上記カード会員割引料金  
※小学生以下および障害者手帳をお持ちの方とその介護者は無料 ※第3水曜日は65歳以上無料

□主催：産経新聞社 □共催：東京都写真美術館 □後援：在日フランス大使館／(社)日本写真協会／(社)日本写真家協会／(社)日本広告写真家協会／サンケイスポーツ／夕刊フジ／フジサンケイビジネスアイ／izal／SANKEI EXPRESS  
□協賛：(株)ニコン／(株)ニコンイメージングジャパン／キャノンマーケティングジャパン(株)／ヴィーナスレコード(株)  
□協力：The Estate of Jeanloup Sieff □企画：G.I.P.Tokyo

現役で活動中だったジャンルー・シーフの突然の訃報から約10年。これを機に夫人のバルバラを中心に未発表作品の見直しが行われました。なぜ未発表だったのか、後に発表するはずだったのか、選定は作家の領域にどこまで踏み込めるのか、コンタクトシートやシーフのこだわったプリント表現など知られざる作品への興味はつきません。これらの作品には、青年シーフが1950年代に写真家としてデビュー以後、ニューヨーク時代1960年代前半の「ハーバース・バザー」での仕事が多く見られます。この時期はシーフにとって、もっとも活気に溢れたパワー全開の活動期にあたります。一般的にはファッションショーやヌード写真で代表されてきたシーフですが、それ以前にはルポルタージュ

でも力量を発揮しました。風景や都市の光景でもシーフ固有の力強い垂直画面と広角レンズの巧みな表現で、独特の視点があります。また作家とともに歩んだ名プリンターによる格調高いゼラチンシルバープリントは彼の作品の魅力を最大限に引き出しています。“失われた時を求めて”ノスタルジアの感慨を生涯抱いたシーフの写真人生を、未発表作品と珠玉の代表作とともにお楽しみください。

◎お問い合わせ≫(株)ジー・アイ・ピー 03-3478-6555

❖ カフェトーク “ジャンルー・シーフ” 2階カフェ シャンブル クレール  
ゲスト：ハービー・山口  
日時：2010年4月18日(日) 16:00～17:00  
定員：35名 参加費：1,000円(観覧料と1ドリンクつき)  
申込方法：当日10時より1階受付カウンターにて開始(先着順)  
※カフェでのトーク終了後に、展示室に移動してトークを続けます。

ジャンルー・シーフのモード、パリ 1987年



イブニングモード、『フィガロ・マダム』、シャトウ・ラレイ 1987年



3F

3階展示室 Exhibition Gallery

友の会無料 三越カード割引 アトレカード割引

5月15日(日) → 7月25日(日)

## 侍と私 —ポートレートが語る初期写真—

□ 一般 500(400)円 □ 学生 400(320)円 □ 中高生・65歳以上 250(200)円

( )は20名以上の団体および、上記カード会員割引料金

※小学生以下および障害者手帳をお持ちの方とその介護者は無料 ※東京都写真美術館友の会会員は無料 ※第3水曜日は65歳以上無料

□ 主催：東京都 東京都写真美術館 □ 協力：凸版印刷株式会社

東京都写真美術館では5月より、ポートレイトをテーマにした展示会を3つ開催いたします。それぞれ独自の視点からポートレイトを取りあげていきます。

5月15日から始まる「侍と私」展では、個人的に使われる写真と、公的に使われる写真の両方面から初期写真を取り上げ、単身像(1人の姿をとらえた写真)をモチーフに、ポートレイトの歴史をたどります。

日本の初期写真は、侍の単身像などのポートレイトが中心にはじまったといえます。急激な時代の変化の中で「姿を残したい・伝えたい」という思いから私的な肖像は拡がり、やがてそれは公的なものの創造へと押し上げられました。

これに対して、西洋では肖像絵画の廉価版として写真が活用されて行きました。王や貴族などに限られた肖像画が写真によって民主化され、広く一般に広まっていったのです。

人々が自分たちの足跡を残すためにと託したポートレイト。当館の豊富なコレクションを中心に構成された作品から、ポートレイト写真とはなにかを問い直していきます。

[出品予定]

一川芳員、下岡蓮杖、内田九一、ナダール、ディステリほか

※担当学芸員によるフロアレクチャー 第2・4全曜日 16:00~ ※本展示会の半券(当日有効)をお持ちの上、会場入り口にお集まりください。



制作者不詳 題不詳(女性像) ダゲレオタイプに手彩色 1840~60年頃



ナダール 《題不詳(甲冑姿の河津伊豆守)》 鶏卵紙 1864年



下岡蓮杖 《徳川家康公の肖像》 鶏卵紙 明治初期



制作者不詳 《FERCAUT》 リトグラフ 19世紀



鹿島清兵衛 《九代目市川團十郎》 セラチンシルバー・プリント 1890年代撮影

3F

友の会無料 三越カード割引 アトレカード割引  
7月31日(土) → 10月3日(日)

## 私とヌード

—ポートレイトは裸である—(仮称)

□ 一般 500(400)円 □ 学生 400(320)円  
□ 中高生・65歳以上 250(200)円

□ 主催：東京都 東京都写真美術館 □ 協力：凸版印刷株式会社

ヌード写真を中心に、社会や風俗、思想と様々な分野と絡み合う表現を取り上げます。ヌードは写真創生期から既に登場し、多くの写真家が作品を残しています。黎明期から現代までの作品を通して、その時代の人々を表象する対象としてヌード写真を捉えています。



小関庄太郎 《二人像》 1932年

3F

友の会無料 三越カード割引 アトレカード割引  
10月9日(土) → 12月5日(日)

## 20世紀の人間像

—写真はポートレイトである—(仮称)

□ 一般 500(400)円 □ 学生 400(320)円  
□ 中高生・65歳以上 250(200)円

□ 主催：東京都 東京都写真美術館 □ 協力：凸版印刷株式会社

フリードランダーやウィングランドが人間をソーシャル・ランドスケープ(社会的風景)として見たように、人間を写していてもポートレイトではない作品、反対に森山大道が路上の野良犬の姿に自分自身を見たように、様々な光景や物事に写真家の内面を反映させた表現をセルフポートレイトとして見る事ができるのではないだろうか。



リー・フリードランダー 《ニューオリンズ》 1968年  
©Lee Friedlander, courtesy Fraenkel Gallery, San Francisco

# B1F

地下1階展示室 Exhibition Gallery

友の会割引 三越カード割引 アトレカード割引

6月12日(土) → 8月8日(日)

## 世界報道写真展2010

□ 一般 700(560)円 □ 学生 600(480)円 □ 中高生・65歳以上 400(320)円

( )は20名以上の団体および東京都写真美術館友の会会員、上記カード会員割引料金  
※小学生以下および障害者手帳をお持ちの方とその介護者は無料 ※第3水曜日は65歳以上無料

□ 主催：世界写真報道財団 / 朝日新聞社 □ 共催：東京都写真美術館  
□ 協賛：キヤノン株式会社 / キヤノンマーケティングジャパン株式会社 / ティエヌ ティ エクスプレス株式会社

世界報道写真展2010が今年も東京都写真美術館で開催されます。1955年オランダで設立された世界報道写真財団は、昨年1年間に撮影された報道写真を対象にコンテストを開催し、その入賞作品で構成される写真展を世界各地へ巡回しています。コンテストはプロの写真家であれば誰でも応募することができ、今年には128カ国から5,847人が応募し、作品数は10万点を突破しました。2月12日、オランダ・アムステルダムで特別賞も含め63の作品が選ばれました。入選者の国籍は23カ国にわたり、まさに世界最大級のコンテストといえるでしょう。今年から審査過程が変わり、「スポーツ」や「自然」など5部門で専門家による1次審査が実施されました。この専門家も含め19人の審査員が2週間をかけて激論を交わし、

各入選作品が選ばれました。今年の世界報道写真大賞を受賞したのは、イタリア人写真家、ピエトロ・マストゥルツォでした。マストゥルツォが撮影した「テヘランの建物の屋上からイランの現体制への抗議の言葉を叫ぶ女性」は、イラン大統領選挙に対して大きな抗議デモも報道されましたが、この写真は静寂が戻った夜、「独裁者に死を」、「アラール・アクバル」という声がテヘラン中に響き渡るという場面です。闇と静謐が支配する住宅街から、住民の深い失望感と怒りが伝わる優れた報道写真といえるでしょう。

✕ 関連イベントの開催を予定しています。  
※詳細は決定次第、ホームページで発表します。



01



02



03



04



05



06

### 01. 「ニュースの中の人びと」の部 単写真2位

デイヴィッド・グッテンフェルダール / 米国, AP通信  
タリバン勢力からの攻撃に塹壕から応戦する米軍兵士(=5月11日、アフガニスタン、コレンガル渓谷)

### 02. 「自然」の部 単写真1位

ヨエ・ベタルスブルガー / ハンガリー, ナショナル・ジオグラフィック・イメージ・コレクション  
獲物を捕らえるカワセミ(=ハンガリー)

### 03. 「スポーツ・アクション」の部 組写真1位

ドナルド・ミレイユ・ジュニア / 米国  
アイアンマン世界選手権(=ハワイ)

### 04. 2009年世界報道写真大賞

ピエトロ・マストゥルツォ / イタリア  
6月24日、テヘランの建物の屋上からイランの現体制への抗議の言葉を叫ぶ女性

### 05. 「現代社会の問題」の部 単写真2位

ステファノ・デル・ルイジ / イタリア, VII ネットワークからル・モンド・マガジン  
干ばつで死んだキリン(=9月、ケニア北東部)

### 06. 「スポットニュース」の部 単写真1位

アダム・ファーガソン / オーストラリア, VII メンター  
自爆テロの現場から逃げ出すアフガン女性(=12月15日、カブール)

# B1F

5月22日(土) → 6月6日(日)

## 第35回JPS展 日本写真家協会展

□ 一般700円 □ 学生・65歳以上400円 高校生以下無料

1950年に創立した日本写真家協会では、写真文化の振興普及のため、写真愛好家を対象にフォトコンテストを開催し、今年で35回を迎えました。JPS展の出品者からは多くのプロの写真家が生まれています。

◎お問い合わせ≫日本写真家協会 03-3265-7453

## オノデラユキ展 ONODERA YUKI

□ 一般 700(560)円 □ 学生 600(480)円 □ 中高生・65歳以上 500(400)円

( )は20名以上の団体および、上記カード会員割引料金

※小学生以下および障害者手帳をお持ちの方とその介護者は無料 ※東京都写真美術館友の会会員は無料 ※第3水曜日は65歳以上無料

□ 主催：東京都 東京都写真美術館 / 読売新聞社 / 美術館連絡協議会

□ 協賛：キャンノン株式会社



Transvest 2009年



12 Speed 2008年

オノデラユキ(1962~)は、1990年代から頭角を現し、日本の写真表現に新風を吹き込んだ新世代の写真作家です。現在はパリを拠点に国際的に活動の場を広げています。オノデラの活動歴は1991年、「写真新世紀」第1回公募展で優秀賞を受賞したことに始まります。この公募写真展は、既存の枠組みにとらわれない新しい才能の発掘を目的に始められたもので、独学で写真技術を身につけたオノデラは、その第1回受賞作《君が走っているのだ、ぼくはダンボの耳で君を待つ》でミステリアスな視覚世界を表現し、高く評価されました。

1993年にパリに活動拠点を移すと、さらに造形性、創造性に磨きがかかり、一般的な「写真」という枠組みに収まらないユニークなシリーズを次々と発表。1996年には《古着のポートレート》シリーズで第21回「コダック写真批評家賞」(フランス)を受賞。2003年、《古着のポートレート》、《カメラ》、《真珠のつくりかた》など9シリーズを収めた作品集『カメラカメラ』(水声社)で第28回木村伊兵衛賞を受賞しました。また、2006年にはフランスにおける最も権威ある写真賞「ニエプス賞」を受賞しています。

彼女の作品は、ある時はカメラに細工を施し、ある時はシュールなコラージュによって、またある時には思わぬアングルから被写体をとらえるなど、常に独自の作品世界を創り出しています。本展では当館の新収蔵作品「Transvest」、『12speed』を含む主要シリーズを集め約60点を展示。日常の中に潜む謎めく空間を写し出し、私たちが視覚の迷宮へと誘ってくれるオノデラユキの世界をたっぷりとお楽しみください。

### ※ 担当学芸員によるフロアレクチャー

第1・3金曜日 14:00~

※本展覧会の半券(当日有効)をお持ちの上、会場入り口にお集まりください。

### ※ 関連講演会 本展に関連して、講演会を開催予定です。

※詳細は決定次第、ホームページで発表します。



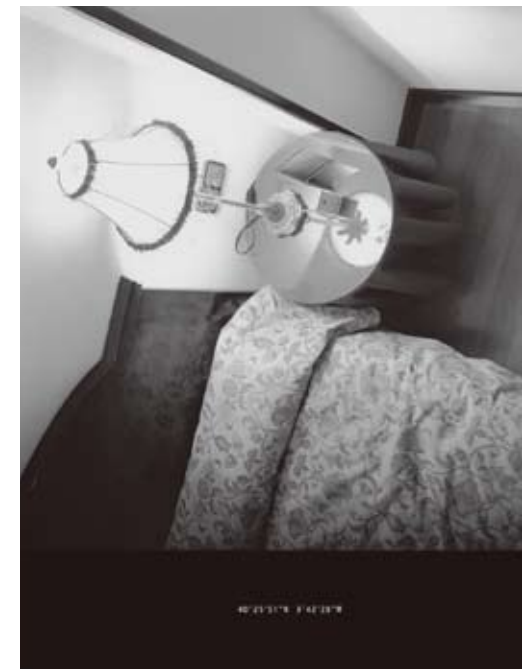
古着のポートレート 1994年



11番目の指 2006-2008年



真珠の作り方 2000-2001年



オルフェウスの下方へ 1-失踪者の後を追って- 2006年

Film ショパン生誕200年記念上映 「別れの曲」

名曲「別れの曲」にのせて描かれる、若きショパンの愛と青春の音楽映画

ワルシャワでピアニストとしてデビューをした若きショパンは、音楽教授エルスナーに出国するよう恋人コンスタンティアと共に説得される。そして芸術の都パリへ...“ピアノの詩人”ショパンの若き日の愛と苦悩が、初恋の人コンスタンティアとの悲恋を縦糸に、ジョルジュ・サンドやフランツ・リストら豪華な登場人物たちとの交流を横糸にして、鮮やかに描き出されます。

作品について：T&Kテレフィルム 03-3486-6881  
スケジュール他：東京都写真美術館 03-3280-0099



写真提供：T&Kテレフィルム

- 上映スケジュール：4月29日(木・祝)～5月16日(日)
- 上映時間：10:20/12:20/14:20/16:20 (各回定員入替制)
- 料 金：一般 1,800円/シニア・学生 1,500円  
小・中学生・障害者手帳をお持ちの方 1,000円

Film 「ハーツ・アンド・マインズ／ベトナム戦争の真実」  
「ウィンター・ソルジャー／ベトナム帰還兵の告白」

ベトナム戦争から50年、映画で見る戦争の真実。

映画史に燦然と輝く伝説の2大傑作ドキュメンタリーがついに日本初公開となります。ベトナム戦争の原因、歴史、悲劇、そして無意味さをリアルに描き、反戦運動を盛り上げて戦争を終結させるきっかけにもなったといわれるドキュメンタリー映画「ハーツ・アンド・マインズ／ベトナム戦争の真実」、あまりに衝撃的な内容から全米マスコミが黙殺した帰還兵たちの驚くべき戦争犯罪の告白の数々を暴露した「ウィンター・ソルジャー／ベトナム帰還兵の告白」の2本を上映。

EDEN ENTERTAINMENT INC. 03-5355-5792



「ハーツ・アンド・マインズ／ベトナム戦争の真実」より

- 上映スケジュール：6月19日(土)～
- 上映時間：未定(各回定員入替制)
- 料 金：[当日券/1作品]一般1,500円/学生1,300円  
シニア(60歳以上)障害者手帳をお持ちの方 1,000円

museum shop

1F



ミュージアムショップ  
『ナディッフ バイテン』

営業時間 10:00-18:00(木・金は20:00、土は18:30)  
◎お問い合わせ：Tel.03-3280-3279

新しいオリジナルグッズのスタンプができがりました。楽しく写真を撮るイラストに吹出しがついています。ちょっとしたメッセージを入れて、手紙やメモなどにどうぞ!



スタンプ 5種類  
各525円(税込)

www.syabi.com/shop/shop.html

cafe

1F 2F



カフェ  
『シャンブル クレール』  
～明るい部屋～

営業時間 [1階]10:00-20:00(日曜日は18:00まで)  
[2階]10:00-18:00  
◎お問い合わせ：Tel.03-5798-2218

この春のおすすめのベルギービールです。さわやかな香りをお楽しみください。



青りんご風味のグリゼット ポムクール  
ラズベリー風味のグリゼット フリュイ デ ポワ  
各250ml 800円(税込)

www.syabi.com/cafe/cafe.html

維持会員  
Corporate Members

東京都写真美術館の活動をご支援いただくため、次の企業・団体に維持会員としてご入会いただきました。  
※詳しくはホームページをご覧ください。

http://www.syabi.com/member/member.html

- |  |   |   |   |
|--|---|---|---|
| <p>特別支援会員</p> <p>キヤノン株式会社<br/>株式会社資生堂</p> <p>特別維持会員</p> <p>株式会社キタムラ<br/>大日本印刷株式会社<br/>東京電力株式会社<br/>凸版印刷株式会社<br/>株式会社ニコン<br/>富士フイルム株式会社<br/>株式会社リコー</p> <p>維持会員</p> <p>株式会社H&amp;S BBDO<br/>株式会社アイデム<br/>株式会社アサダー ディーケイ<br/>旭化成株式会社<br/>朝日新聞社<br/>朝日生命保険相互会社<br/>アサヒビール株式会社<br/>朝日放送株式会社<br/>株式会社アシネット婦人画報社<br/>アップルジャパン株式会社<br/>株式会社アトみより<br/>株式会社アナホールディングス<br/>イー・ギャランティ株式会社<br/>株式会社岩波書店<br/>株式会社潮出版社<br/>内田写真株式会社<br/>エスエ製菓株式会社<br/>株式会社エース企画<br/>NECディスプレイソリューションズ株式会社<br/>株式会社NHKアート<br/>株式会社NHKエデュケーショナル<br/>株式会社NHKエンタープライズ<br/>株式会社NHKグローバルメディアサービス<br/>株式会社NHK出版<br/>株式会社NHKビジネスクリエイト<br/>株式会社NHKプロモーション<br/>株式会社NHKメディアテクノロジー<br/>株式会社NTTデータ<br/>株式会社NTTコム<br/>NIT都市開発株式会社<br/>株式会社エフエム東京<br/>エプソン販売株式会社<br/>エルメス財団<br/>株式会社大塚商会<br/>オムロン株式会社<br/>オリックス株式会社<br/>オリックスイノベーション株式会社<br/>株式会社オンワードホールディングス<br/>科研製薬株式会社<br/>カシオ計算機株式会社<br/>鹿島建設株式会社<br/>株式会社角川グループホールディングス<br/>カトーレック株式会社<br/>カルピス株式会社<br/>株式会社カンパセーション アンド カムパニー</p> | <p>株式会社キクチ科学研究所<br/>キッコーマン株式会社<br/>株式会社紀伊國屋書店<br/>キハラ株式会社<br/>キャノンマーケティングジャパン株式会社<br/>ギャラリ小柳<br/>株式会社キューンコミュニケーションズ<br/>共同印刷株式会社<br/>社団法人共同通信社<br/>協和発酵キリン株式会社<br/>キリンホールディングス株式会社<br/>株式会社弘亜社<br/>株式会社講談社<br/>株式会社光文社<br/>株式会社国書刊行会<br/>株式会社コスモインターナショナル<br/>株式会社コーセー<br/>コダック株式会社<br/>株式会社ザ・アール<br/>サッポロホールディングス株式会社<br/>産経新聞社<br/>サントリホールディングス株式会社<br/>株式会社サンロズ<br/>株式会社ジェイアール東日本企画<br/>ジェイティビー印刷株式会社<br/>株式会社シグマ<br/>株式会社実業之日本社<br/>清水建設株式会社<br/>株式会社写真弘社<br/>写真の学校 / 東京写真学園<br/>シャネル株式会社<br/>株式会社集英社<br/>株式会社主婦と生活社<br/>株式会社主婦の友社<br/>株式会社小学館<br/>松竹株式会社<br/>信越化学工業株式会社<br/>株式会社新潮社<br/>株式会社スタジオアリス<br/>有限会社スタジオエムジー<br/>株式会社スタジオアブリ<br/>住友化学株式会社<br/>セイコーホールディングス株式会社<br/>株式会社青春出版<br/>積水ハウス株式会社<br/>株式会社セーティ<br/>セントラル警備保障株式会社<br/>全日本空輸株式会社<br/>ソニー株式会社<br/>第一三共株式会社<br/>第一法規株式会社<br/>ダイキン工業株式会社<br/>株式会社ダイケングループ<br/>大成建設株式会社<br/>有限会社タイ・シイギャラリ<br/>株式会社宝島社<br/>株式会社竹中工務店<br/>株式会社タムロン</p> | <p>株式会社淡交社<br/>株式会社丹青社<br/>株式会社中央公論新社<br/>中外製薬株式会社<br/>株式会社ティー・ビー・オー<br/>株式会社TBSテレビ<br/>株式会社ター・オー・ダブリュー<br/>株式会社テレビ朝日<br/>株式会社テレビ東京<br/>電源開発株式会社<br/>株式会社電通<br/>東亜建設工業株式会社<br/>東京ガス株式会社<br/>東京急行電鉄株式会社<br/>東京工芸大学<br/>東京新聞・中日新聞社<br/>株式会社東京スタデオ<br/>東京造形大学<br/>東京総合写真専門学校<br/>東京テアトル株式会社<br/>東京都競馬株式会社<br/>株式会社東都ドーム<br/>株式会社ニューズ通信社<br/>株式会社東京美術倶楽部<br/>東京外口ロケットテレビジョン株式会社<br/>株式会社東芝<br/>東宝株式会社<br/>株式会社東北新社<br/>東洋航業株式会社<br/>株式会社徳間書店<br/>図書印刷株式会社<br/>戸田建設株式会社<br/>トヨタ自動車株式会社<br/>日外アソシエーツ株式会社<br/>日油株式会社<br/>株式会社日経BP<br/>日産自動車株式会社<br/>株式会社日本カメラ社<br/>日本空港ビルデング株式会社<br/>日本経済新聞社<br/>日本興亜損害保険株式会社<br/>株式会社日本廣告社<br/>社団法人日本写真実業協会<br/>日本写真印刷株式会社<br/>社団法人日本写真家協会<br/>積水ハウス株式会社<br/>日本写真芸術専門学校<br/>日本写真作家協会<br/>社団法人日本写真文化協会<br/>日本大学芸術学部<br/>日本たばこ産業株式会社<br/>日本テレビ放送網株式会社<br/>日本ハム株式会社<br/>日本ビューレット・バックカード株式会社<br/>株式会社ニッポン放送<br/>日本ロレックス株式会社<br/>株式会社ニューアートディフュージョン<br/>野崎印刷紙業株式会社<br/>株式会社博報堂<br/>株式会社ハズ・コミュニケーションズ</p> | <p>パナソニック株式会社<br/>株式会社林原生物化学研究所<br/>びあ株式会社<br/>北海道 写真の町東川町<br/>東日本旅客鉄道株式会社<br/>光写真印刷株式会社<br/>株式会社美術出版社<br/>株式会社日立製作所<br/>株式会社日立物流<br/>株式会社ビデオプロモーション<br/>ヒノキ新薬株式会社<br/>株式会社ファーストリテイリング<br/>富国生命保険相互会社<br/>富士重工株式会社(スバル)<br/>富士ゼロックス株式会社<br/>株式会社フジテレビジョン<br/>富士電機システム株式会社<br/>株式会社ピッコカメラ<br/>株式会社扶桑社<br/>株式会社双葉社<br/>株式会社アライズイト<br/>株式会社アライズイト<br/>株式会社アリスホテル<br/>株式会社フレームマン<br/>株式会社文藝春秋<br/>株式会社ベネッセホールディングス<br/>株式会社ホテルオークラ<br/>HOYA株式会社 PENNAX(ペンタックス)光学事業部<br/>株式会社堀内カメラ<br/>本田技研工業株式会社<br/>毎日新聞社<br/>株式会社マダガスハウス<br/>マミヤ・デジタル・イメージング株式会社<br/>丸善株式会社<br/>株式会社ワンダム<br/>三井倉庫株式会社<br/>三井不動産株式会社<br/>株式会社三越<br/>三菱地所株式会社<br/>三菱製紙株式会社<br/>武蔵大学<br/>森ビル株式会社<br/>モルガン・スタンレー証券株式会社<br/>株式会社ヤナセ<br/>ヤマロジスティクス株式会社<br/>ユサコ株式会社<br/>ユニリーバ・ジャパン<br/>横河電機株式会社<br/>株式会社吉野工業所<br/>株式会社ヨドバシカメラ<br/>読売新聞社<br/>ライオン株式会社<br/>ライカカメラジャパン株式会社<br/>リジュモン ジャパン株式会社 モンブラン<br/>株式会社アコー</p> |
|--|---|---|---|

(平成22年3月現在・五十音順)

友の会  
Support

東京都写真美術館では、随時新規会員の募集をしています。展覧会のご招待・割引、上映映画の割引をはじめ、たくさんの特典をご用意している他、関連施設での割引もごぞいます。開館時間中(10:00～18:00、木・金は20:00まで)に当館1階チケットカウンター横「友の会カウンター」にてご入会いただけます。皆さまのご入会を心よりお待ちしております。

年会費	
個人会員	2,000円
家族会員同伴者1名まで	3,000円
シルバー会員(65歳以上の方)	1,000円

- 受付は当館1階チケットカウンター横の「友の会カウンター」のみとなっております。
- 会員証の有効期限は、翌年の同月末日までです。※詳細は当美術館までお問い合わせください。Tel.03-3280-0099

友の会特典	特典内容
収蔵展・映像展	無料 ○会期中はいつでもご覧いただけます ○家族会員の方は、同伴者1名まで無料
企画展・共催展	割引 ○御利用いただけない場合もございます
ミュージアムショップ	5%引き ○一部商品は除きます
その他	○ニュース「eyes」送付 ○1階ホールの割引(上映作品により異なります) ○ロゴス渋谷店で1,000円以上のお買上につき5%割引(洋書・洋雑誌など)